

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670400803		
法人名	有限会社 敬愛会		
事業所名	グループホームこもれびの家		
所在地	山形県米沢市花沢3612番地の1		
自己評価作成日	平成 22年 2月 15日	開設年月日	平成 16年 6月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 22年 3月 26日	評価結果決定日	平成 22年 4月 12日

(ユニット名 ぽぷら)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの事業所は、「笑顔が見たい、役に立ちたい」をスローガンに掲げご利用者様の目線にたって支援を行っています。そこには、ご家族の思いとご利用者様が送られてきた生活歴が根底にあります。ご利用者様の言葉にできない思いを捉えることができるよう、居室担当者をはじめとし職員全員参加のカンファレンスを行い多角的な視点から物事を考え取り組んでいます。自宅での生活が困難になり何かしらの支援を必要とする生活になってしまったけれど、そのことを受け入れここでの暮らしが自然になるよう、ご利用者様お一人おひとりの声なき声に耳を傾け、その人らしく生活できるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも見ることができるよう、玄関わきに掲示しております。また、毎日の唱和を欠かさず行うことで意義・目的を共有しております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として「あいさつ」をし、顔馴染みの関係になるように努めています。また昨年は、ご近所の方から畑で採れた作物をたくさんいただくなど、いいかたちで交流をさせていただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議の場を活用するなどして、事例や事案などを聞いて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進会議の場を活用し、相談員の方などからいただいた意見や評価について話し合いの時間をもって、そこで活発な意見を頂戴し生かしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進会議へ参加いただいた際や訪問・電話等で相談をさせていただいております。また、相談員の受け入れを行っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	毎月行う会議において身体拘束についての意見交換をし、危険行為に対応するための対応策を拘束排除の理念に基づき話し合っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての意見交換を行い勉強の機会を設けております。厚生労働省や県・市の実態調査等により指導を受け虐待ゼロに積極的に取り組んでおります。今後も安全・安心を心掛け虐待ゼロに努めていきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の内容に組み込み、全員が理解できるようにしております。また、利用されている方もおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書も併せて、必要書類の読み合わせを行い説明しています。また、ご家族の思いにしっかりと寄り添うことができるように話し合いの場をもっております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット毎の玄関に用紙とポストを用意しており、面と向かっては言いにくいことなどを随時聞きだせるように考えております。また、面会時には、ご利用者様の近況を報告させていただくと共にご家族の意見を聞きだすよう働きかけをしております。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時話やすい(相談しやすい)環境をつくっている。また、スタッフ会議の場などで率直な意見を聞きだすよう努力をし、意見交換をしております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月個々人に自己評価をしてもらい、翌月の目標をもって頑張れるよう働きかけをしております。また、不定期的に自己評価とあわせて主任からの評価をってもらうなどをし、各自が目標を持ち、努力のしがいのある環境作りに努めております。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修会や勉強会に参加しています。個々人にあった研修等に研修を選び参加していただき、報告書・報告会をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県主催の認知症実践者研修や・グループホーム協会等の交流をはかっております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族の要望や不安に思っていることをしっかりと受け止めることができるよう、ゆっくりと話をお聞きしております。また、サービス開始の段階で不足した部分については面会があった場合にお話しをお聞きし、安心できる環境作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いが話しやすくなるように、場所や時間等を柔軟に対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の申し込みを頂き、面接等を経た段階で、ご利用者様が必要としている支援内容と私たちのグループホームの支援内容が合致するのだろうか等を話し合い、必要であれば適切であろう機関を紹介させていただいたりしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の思いに傾聴することを念頭に接しております。ご利用者様の尊厳を大切にすることを常に声に出して申し送っております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の一番の理解者であり、拠りどころでありますので、面会の際にはご家族様とゆっくり話ができるよう配慮したり、面会の少ないご家族様にはお手紙や電話等で近況を報告させていただいております。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達やご兄弟等の面会があった際には記念写真を撮らせていただいたり、お友達との外出の支援など馴染みの関係が継続できるよう支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの個性を十分に把握し、ご利用者様同士馴染みの関係が築けるよう配席などに工夫をしております。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様やご家族様が必要とされた際には、できる限りの支援をさせていただいております。また、転所先に訪問に行かせていただき情報交換をしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室の担当者を配置し、担当者が一番の理解者になるよう信頼関係を築くよう努めております。また、申し送りや会議の場で意見交換を行い、それぞれの気づきを話し合いその人を知るよう努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントにおいてこれまでの生活歴をお聞きし、センター方式に落とし込みケアプランに反映するようにしております。また、サービスを受けておられた方に関しましては情報をいただいたり、お電話で相談させていただいたりして十分に把握できるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、定期的な見直しを行うことで現状の把握に努めております。できること、また支援の方法次第でできることを見極めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、居室担当者が本人の思いに傾聴しケアプランに反映できるよう支援しております。それをもとにケアカンファレンスをし、ご家族の思いや他職員の意見等を反映させております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を誰が読んでも分かりやすい言葉で記録しております。記録はケアプランに沿ったものになるよう意識しており、ケアプランの実施状況に反映できるようになっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問や、ご近所のかたとのお茶飲み の場などいただき少しでも外からの刺激を受け、楽し みのある生活が送れるよう考え支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、かかりつけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けられるよう に支援している	定期的に協力医より往診をしていただいております 。また、入居前のかかりつけ医への通院を希望され る利用者様には、ご家族からの協力をいただいたり 、必要に応じてお手伝いをしております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえ た情報や気づきを、職場内の看護職員や 訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利 用者が適切な受診や看護を受けられるよ うに支援している	往診の際などに状況を詳しくお話させていただ いたり、時には電話等で相談をさせていただいたり しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療で きるように、また、できるだけ早期に退院 できるように、病院関係者との情報交換 や相談に努めている。又は、入院治療が 必要な可能性が生じた場合は、協力医療 機関を含めた病院関係者との関係づくり を行っている。	入院をされた際は医療機関との情報交換をし、病 院側には入院される前の状況を、こちらでは入院 先での状況の把握ができるように努めております。 また、入院先に出向き看護師さんよりお話をいただ いたり、相談員さんとの情報交換をし退院にむけて のはたらきかけを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に 説明しながら方針を共有し、医療関係者 等と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を踏まえた上で、ホームで できるケアの内容を説明させていただいております 。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署開催の救命救急講習会に定期的に参加し、学習しております。また避難訓練の際にも消防署の方より、事故発生時の対応について教えていただいております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の主導のもと、年に2回の避難訓練を実施しております。また地域の防災組織にも加入しており、地域との協力体制も整っております。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉かけを徹底しています。また、毎日の唱和のなかで意識付けがされており、関わりや言葉遣いの注意をしております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様が、自身の思いを言いやすい環境作りに努めております。急がずゆっくりの関わりの中で自己決定できるように心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれの生活スタイルを尊重できるよう取り組んでおります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分で洋服を選んでいただけるよう支援しております。行事がある日や外出の時などは、居室担当者と共に洋服を選ぶ楽しみをもつていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の嗜好を考慮し、その日の広告などに目を通したり、旬の食材に気を配りながら一緒に考えたり買い物をしたり、調理したりしております。食後は食器拭きなどを手伝っていただいたりしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当にあたったユニットが毎日の献立を作成しております。食事量や水分・塩分、その他の禁食等を考慮しながらバランスの摂れた食事提供を心掛けております。また嚥下の状態に応じた提供の仕方にも配慮しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ずしております。必要な方に対してはケアプランに入れることで職員の意識付けを徹底しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを排泄チェック表により把握し、必要時にはプライバシーに配慮した言葉かけによりトイレ誘導を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルトなどを摂っていただいたり、毎日の体操などで定期的な排便を誘導しております。必要に応じてドクターとの相談をさせていただき、排便コントロールを行っている場合もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めず、その日の体調や気分に応じて入浴できるよう支援しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起きる時間や寝る時間は決めず、一人ひとりの習慣や体調に応じて対応しております。お昼寝される方にされない方に、個々人の生活スタイルを尊重しながら支援させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の効能・副作用を全職員が分かって扱えるように徹底しております。また、会議の中で勉強会を開催しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴を把握し、ホームに入居されてからも可能な限り続けていけるよう支援しております。植木鉢を持参して毎日水遣りをされている方、塗り絵をされている方、短歌を詠んだり歌を歌ったりとそれぞれに趣味・嗜好を楽しんでいけるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日職員と共に食材を買いにでかけております。また、居室担当者と共に外食に出掛けたり、散歩・お茶に出掛けるなどされております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所する際にご家族との話し合いの上、ご本人の希望を尊重して支援しております。金銭管理が可能な方はご自分で管理をされております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に添えるように支援しております。なかなかご自身でということが困難になられた方に対しても担当者がお気持ちを配慮し、お手伝いをしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることができるように、作成の段階からご利用者の方たちと職員とで一緒に貼り絵を作ったりしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに腰掛けたり、廊下の長いすでお話をされたり、おもいおもいに過ごせるよう配慮しております。また和室のこたつで横になる方もおられます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が使われていた物を持って来ていただくよう、入居する際をお願いしております。お茶碗やはし・湯呑みもご自身のものを使っていただいております、個性がでております。居室にもダンスやご家族の写真などを置いておられる方もございます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット毎にご利用者様が違いますので、それぞれ入居されておりますお客様の「できること」「わかること」を充分にアセスメントをして、安全・安心に努めております。		